

シニア・高齢者のくらし向きと長寿社会に関する意識調査

— 高齢者の3割以上が、三年前に比べてくらし向きは「悪くなった」と回答 —

2017年4月25日
株式会社ジー・エフ www.gf-net.co.jp
〒135-0016 東京都江東区東陽 3-22-6
電話:03(5633)7844 FAX:03(5633)7854

株式会社ジー・エフ（本社：東京都江東区、代表取締役社長：岡田博之）は、自社が保有するシニアデータベースを対象に、「シニア・高齢者のくらし向きと長寿社会の課題に関する意識」について調査を実施しました。調査手法はアウトバウンドIVRによる電話調査。調査期間2017年2月23・24日において、65～74歳・75歳以上 各1,000サンプルの合計2,000人から有効回答を得ることができました。

◆ 「三年前に比べたくらし向き」は、「良くなった」約1割 「悪くなった」3割強

「3年前に比べて現在あなたのくらし向きは良くなったと思いますか？」との質問に対して、「良くなった」という回答の割合は全回答件数の9.5%、「変わらない」55.5%、「悪くなった」35.0%という結果になりました。

◆ 「くらし向きが良くなった」理由は、「くらしにかかる費用が減ったから」が45%

「くらし向きが良くなった」と回答した方（190人）にその理由を聞いたところ、「くらしにかかる費用が減ったから」45.3%（86件：全回答者の4.3%）「自分や家族の収入が増えたから」22.1%（42件：全回答者の2.1%）「その他の理由」32.6%（62件：全回答者の3.1%）という結果になりました。

◆ 「くらし向きが悪くなった」理由は、「収入減」「くらしにかかる費用の増」が約3割

「くらし向きが悪くなった」と回答した方（700人）にその理由を聞いたところ、「（物価にかかわらず）くらしにかかる費用が増えたから」31.9%（223件：全回答者の11.2%）「自分や家族の収入が減ったから」30.3%（212件：全回答者の10.6%）「物価が上がったから」25.9%（181件：全回答者の9.1%）「その他の理由」12.0%（84件：全回答者の4.2%）という結果になりました。

◆ 長寿社会で改善が必要だと思うことは、「老後の生活費の見通し」が約4割

「長寿社会で改善が必要だと思うことはあるか？」について次の5択で質問したところ、各選択肢の回答割合は「年金や保険制度の改正で老後の生活費がいくら必要かわからない」39.0%「老化に伴う生活支援・介護サービスの不足」18.9%「高齢者に適した収入を得られる場が少ない」15.3%「その他」16.7%「特に改善が必要だと思うことはない」10.3%という結果になりました。

※本レポートについて、当社の許可なく無断転載・複写を禁じます。本レポートの転載、および一部引用が必要な場合には、弊社までご連絡ください。
株式会社ジー・エフ シニアリサーチ担当

調査概要

- ◇ 調査対象 : 全国の GF シニアデータベース
- ◇ 有効回答件数 : 2,000 件
- ◇ 標本抽出法 : GF・RTD (ランダム・テレホンナンバー・ダイアリング) 方式
- ◇ 調査方法 : アウトバウンド IVR による電話調査
- ◇ 調査時期 : 平成 29 年 2 月 23 日 (木)、24 日 (金)
- ◇ 調査主体 : 株式会社ジー・エフ
- ◇ 質問項目
 - 1. 三年前と比べた今の暮らし向き --- p. 3
 - 2. 暮らし向きが良くなった主な理由 --- p. 6
 - 3. 暮らし向きが悪くなった主な理由 --- p. 7
 - 4. 暮らし向きが悪くなった理由で最も支出が増えた項目 --- p. 8
 - 5. 長寿社会で改善が必要だと思うこと --- p. 9
- ◇ 所感 --- p. 10

調査結果

表 1 割付 (性別×年代別)

	前期高齢者	後期高齢者	合計
男性	467s (65～74 歳)	500s (75 歳以上)	967s
女性	533s (65～74 歳)	500s (75 歳以上)	1,033s
合計	1,000s	1,000s	2,000s

※比率は小数点第 1 位までを小数点第 2 位四捨五入により表示しております。

1.1 三年前に比べて暮らし向き —「変わらない」が過半数、1/3 強は「悪くなった」—

◇「三年位前と比べて現在あなたの暮らし向きは良くなったと思うか？」と質問したところ（図 1-1）、「変わらないと思う」55.5%、「悪くなったと思う」35.0%、「良くなったと思う」9.5%という回答割合でした。

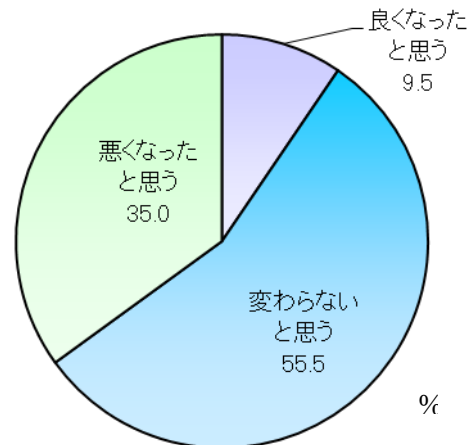


図 1-1 3年位前と比べて現在の暮らし向きについて (n=2,000)

三年前にあたる2014年は、4月1日に消費税が5%から8%に引き上げられた年になります。

それ以降、高齢者の暮らし向きに関わる事柄として、年金制度・医療保険、介護保険制度の改正等が毎年のように行われて来ました。

景気は消費増税によるマイナスの影響を受けながらも、その一方で株価が2015年に日経平均2万円を記録し、2016年には日本では初めてのマイナス金利が導入される等の変遷を経て、実質消費支出は前年比2015年2.3%減、2016年1.7%減という時期でした。

2013年12月26・27日に弊社で実施した電話調査（第4回シニア・高齢者の景気動向に関する意識調査）では、「現内閣になってからの一連の経済政策による景気の変化は、あなたの暮らしにとって望ましい方向に変化していると思うか？」という質問に対して、「望ましい」22.7%・「どちらとも言えない」35.0%・「望ましくない」42.4%という結果でした。

以降3年を経過した現在、「望ましい方向」という期待が約2割あったのに対して「良くなった」という回答割合は1割弱、「望ましくない」という不安が4割強あったのに対して「悪くなった」は35%、半数強が「変わらない」という結果でした。

次頁では、近年退職年齢が引き上げられていることからこの三年間で退職をされた方が相当数ありと想定される現在「65歳～74歳（前期高齢者）」の方々とは、三年前には70歳を超えていた現在「75歳以上（後期高齢者）」の方々の意識を比較します。

1.2 年代別にみる暮らし向き —65～74歳「悪くなった」多く「良くなった」少ない—

- ◇ 65～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）の年代別にみると（図1-2）、「悪くなった」65～74歳38.4%・75歳以上31.6%、「変わらない」65～74歳53.8%・75歳以上57.2%、「良くなった」65～74歳7.8%・75歳以上11.2%という結果でした。

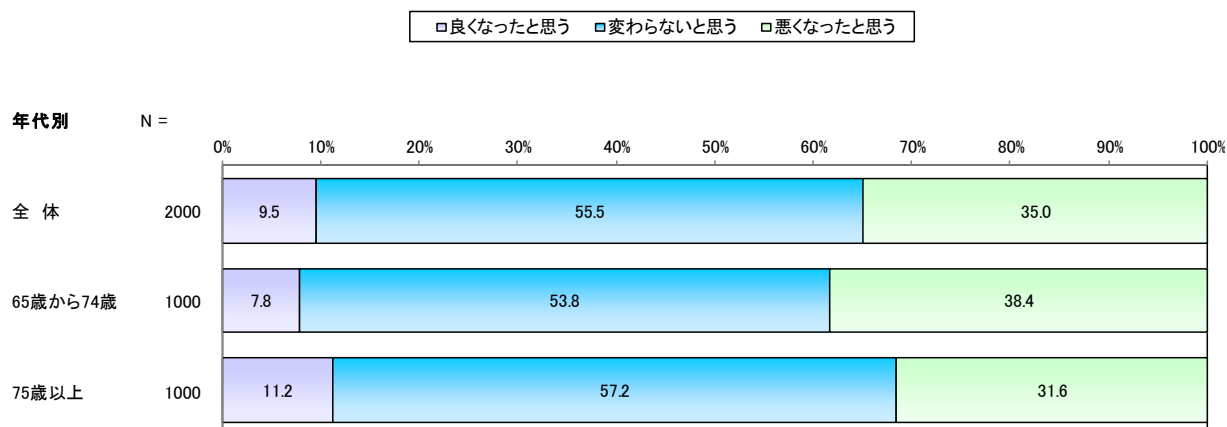


図1-2 年代別3年位前と比べた現在の暮らし向きについて（n=2,000）

75歳以上の方々に比較して、就業年齢に近い65～74歳の方々が「三年位前に比べて悪くなった」が6.8ポイント高く、「良くなった」が3.4ポイント低い結果になっていました。

65～74歳の年代では、全体の（n=1000）4割近くが「悪くなった」という回答になります。

また、75歳以上の年代でも、「悪くなった」は全体（n=1,000）の3割を超える回答割合となっていました。

次頁では、経済格差について問われることの多い、首都圏と首都圏以外の地域との回答を比較します。

1.3 暮らし向きの首都圏と他地域との比較 —「悪くなった」は6ポイントの乖離—

- ◇ 首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県 n=567）と首都圏以外の地域（n=1,433）の各選択肢の回答割合は（図 1-3）、「良くなった」では首都圏 8.8%・首都圏以外 9.8%とほとんど差異はありませんでしたが、「変わらない」首都圏 60.5%・首都圏以外 53.5%、「悪くなった」首都圏 30.7%・首都圏以外 36.7%と6ポイントの差があり、首都圏に比較してその他の地域の方が暮らし向きの悪くなった高齢者が多いという結果でした。

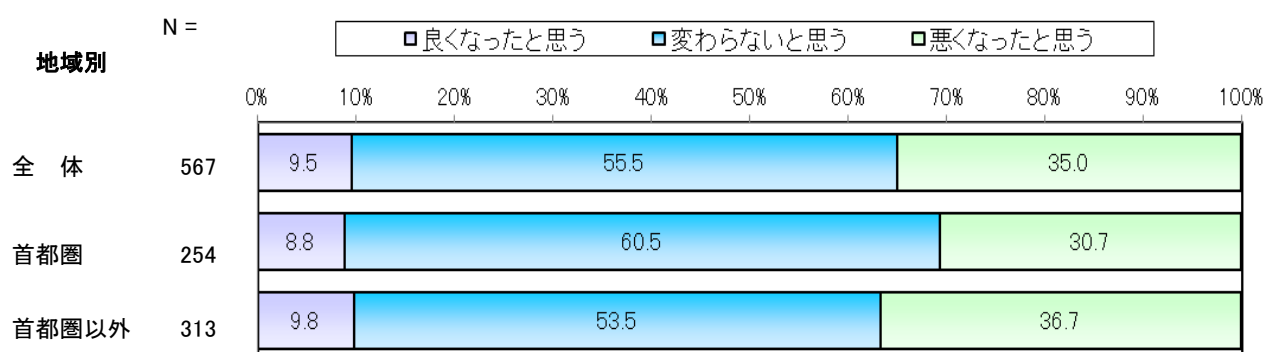


図 1-3 首都圏・他地域：3年位前と比べた現在の暮らし向きについて（n=2000）

昨今の経済効果は大都市、特に首都圏にプラスと言われていますが、年金生活者が中心となる高齢者の意識では、「良くなった」は首都圏・首都圏以外でほとんど変わらず、むしろで首都圏が1ポイント低い結果になっていました。

しかし、「悪くなった」という回答割合は首都圏に比べて首都圏以外が6ポイント高く、35%を超える結果になりました。

本質問に対する回答割合の男女比較では大きな差異はありませんでしたので比較を割愛いたします。

次頁では、「良くなった」「悪くなった」各々の理由についてみていきます。

2. 暮らし向きが良くなった主な理由 — 「暮らしにかかる費用が減った」が 45.3% —

- ◇ 暮らし向きが「良くなったと思う」と回答した方(190人)を対象に「良くなった理由」について「収入増」「生活費減」「その他」の3択で質問したところ(図2-1)、各回答割合は「暮らしにかかる費用が減った」45.3%が最も多く、「その他の理由」32.6%、「自分や家族の収入が実際に増えた」22.10%) という結果になりました。

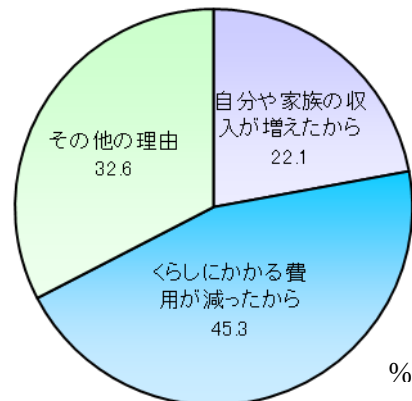


図 2-1 暮らし向きが良くなった思う理由 (n=193)

本質問においては、男女別・年代別ともにサンプル数の少ない属性のセルで 100 サンプル未満となりますので、男女別・年代別比較データの掲載を割愛させていただきます。

参考情報として、男女別にみると男性は「収入の増」を理由とする回答、女性は「暮らしにかかる費用の減」を主な理由とする回答の割合が多くなっていました。

尚、年代別では 4 ポイント以上の乖離のある回答項目はありませんでした。

また、「暮らしにかかる費用が減ったから」と回答された方を対象に「最も費用が減った項目」について「食費」「食費以外の生活費」「子や孫など家族にかかる支出」「医療・健康にかかる支出」「趣味や娯楽等にかかる支出」「その他」の 5 択で質問しておりますが、対象となるサンプル数 86 人となりますので、データの掲載を割愛させていただきます。

参考情報として、「住宅・水道光熱費・衣服や日用品等の食費以外の生活費」が減ったという回答割合が 40.7%と最も多くなっていました。

3.1 暮らし向きが悪くなった主な理由—「物価」より「費用増」「収入減」の影響が大—

◇ 暮らし向きが「悪くなったと思う」と回答した方(700人)を対象に「悪くなった理由」について次の4択で質問したところ(図3-1)、各回答割合は「(物価にかかわらず)暮らしにかかる費用が増えた」31.9%、「収入が減った」30.3%、「物価があがった」25.9%、「その他の理由」12.0%という結果になりました。

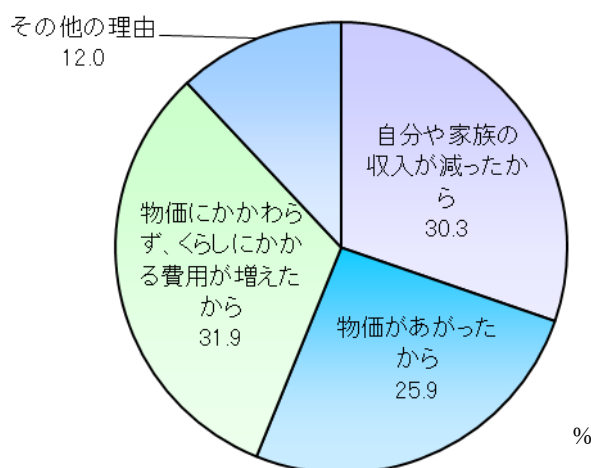


図3-1 暮らし向きが悪くなったと思う理由 (n=700)

3.2 男女別にみる暮らし向きが悪くなった理由 —「暮らしにかかる費用」で乖離—

◇ 男女別にみると(図3-2)、「(物価にかかわらず)暮らしにかかる費用が増えた」の回答割合は男性35.5%・女性28.5%と男性の方が7ポイント高く、「その他」「物価が上がった」の回答割合は女性の方が各々5.1ポイント・3.9ポイント高くなっていました。

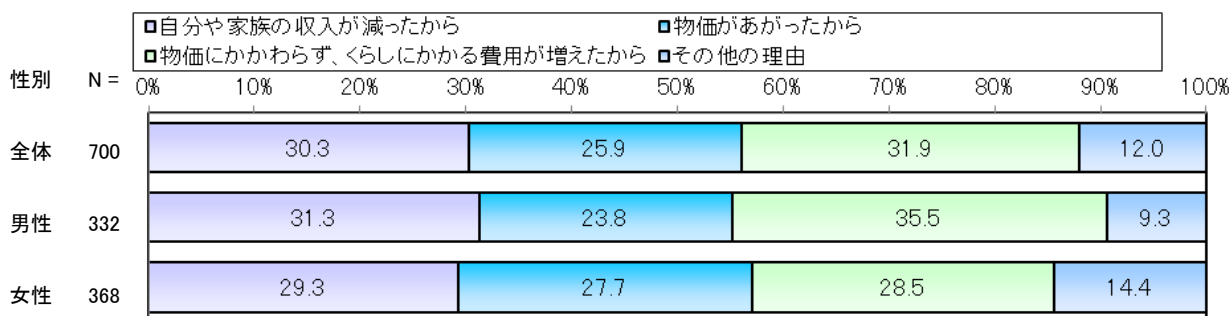


図3-2 男女別暮らし向きが悪くなったと思う理由 (n=700)

3.3 年代別にみる暮らし向きが悪くなった理由—75歳以上でも「収入減」27.5%—

◇ 65～74歳と75歳以上の年代別にみると（図3-3）、「収入が減った」65～74歳32.6%・75歳以上27.5%と、65～74歳の方が5.1ポイント高くなっていました。

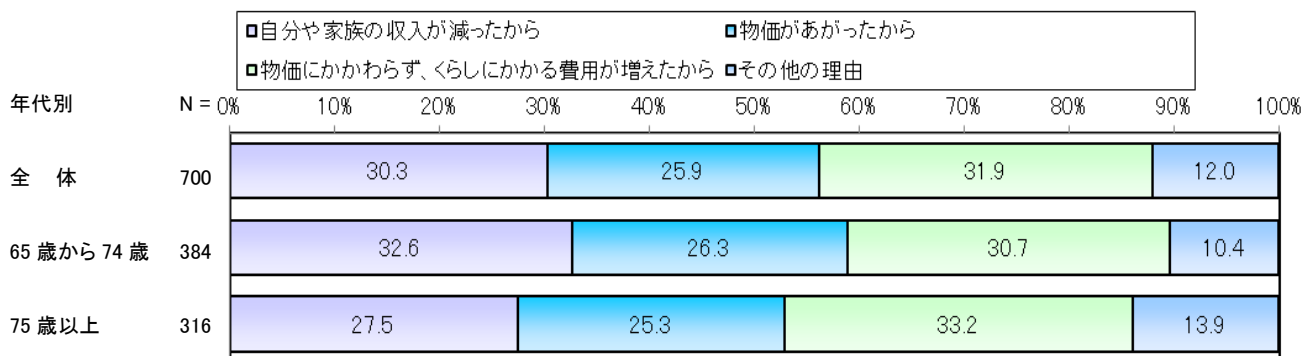


図3-3 年代別暮らし向きが悪くなった思う理由（n=700）

年代別で最も回答割合が多かった理由は、65～74歳は「収入が減った」、75歳以上は「暮らしにかかる費用が増えた」でした。しかし、75歳以上でも4人に1人以上が「自分や家族の収入が減った」を主な理由と回答していました。

4.1 暮らしにかかる費用で最も増えた項目 —「医療・健康関係」が4割強—

◇ 暮らし向きが「悪くなった理由」について「(物価にかかわらず)暮らしにかかる費用が増えた」と回答した方(223人)に対して、「もっとも費用が増えた項目」について図3-2の6択で質問したところ、主な回答割合は「医療・健康」41.7%、「食費以外の生活費」17.5%、「食費」16.6%、「子や孫など家族にかかる支出」12.1%という結果になりました。

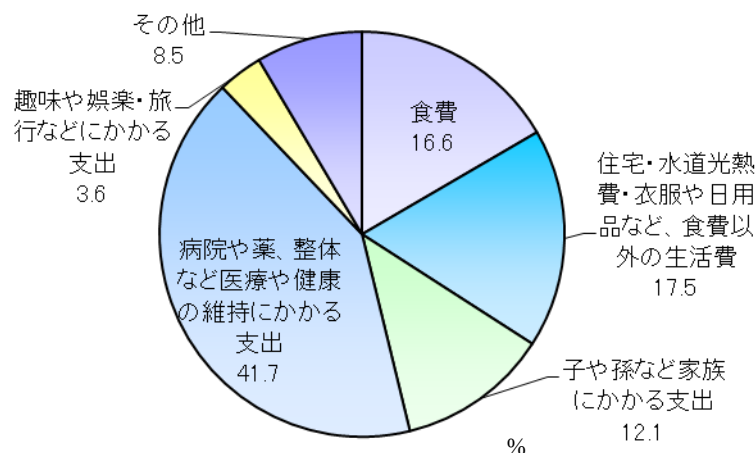


図3-2 暮らしにかかる生活費で最も増えたもの（n=223）

5.1 長寿社会で改善が必要だと思う項目—「必要な老後費用が不明」が39%—

- ◇ 「一層高齢化の進む長寿社会で何か改善が必要だと思うことはあるか？」について次の5択で質問したところ（図4-1）、各回答割合は「年金や保険制度の改正で老後の生活費がいくら必要かわからない」が39.0%で最も高く、「生活支援や介護サービスの不足」18.9%、「選択肢以外」16.7%、「高齢者が働きやすい収入が得られる場が少ない」15.3%、「特に改善が必要だと思うことはない」10.3%という結果になりました。

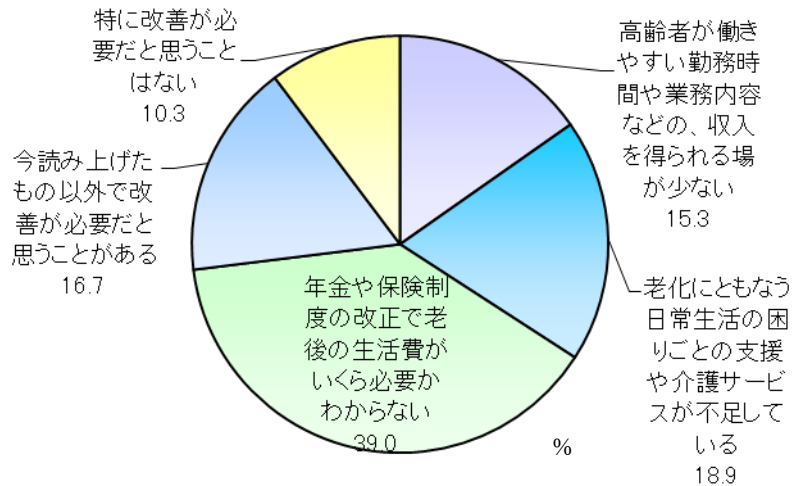


図4-1 長寿社会で改善が必要だと思うもの（n=2,000）

5.2 年代別にみる長寿社会で改善が必要な項目—職場に対して9.3ポイントの差—

- ◇ 65～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）の年代別にみると（図4-2）、「年金や保険制度の改正で老後の生活費がいくら必要かわからない」の回答割合は65～74歳41.3%・75歳以上39.6%で大きな差はなく、いずれの年代でも最も回答割合の多い項目でした。

- ◇ 「高齢者が働きやすい収入が得られる場が少ない」の回答割合は65～74歳19.9%とほぼ2割あるのに対して75歳以上は10.6%と半分程度で9.3ポイントの乖離がありました。

「特に改善が必要だと思うことはない」の回答割合は65～74歳6.9%に対して75歳以上は13.6%とほぼ2倍で6.7ポイント、「生活支援や介護サービスの不足」は65～74歳16.0%に対して75歳以上は21.8%と5.8ポイント75歳以上の方が高い結果となりました。

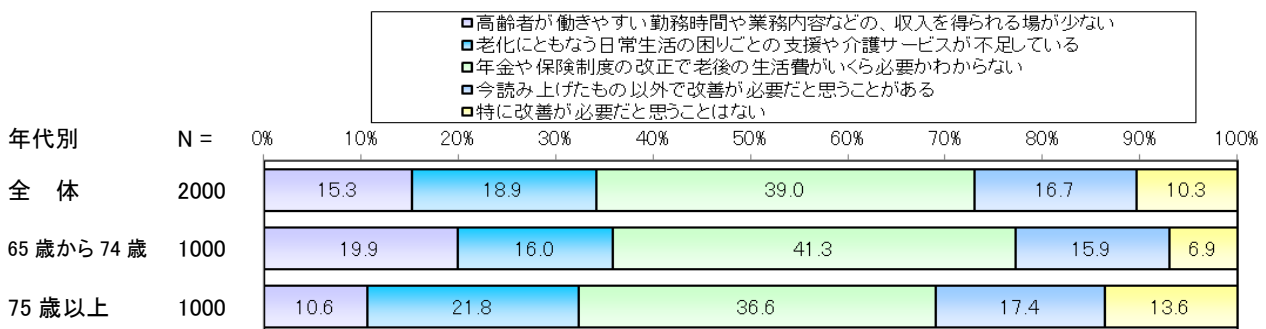


図4-2 年代別長寿社会で改善が必要だと思うもの（n=2,000）

所 感

◇ 暮らし向きについて

この3年間は、消費税率の変更だけでなく、健康保険料・介護保険の受給内容・年金受給内容の変更等、多くの高齢者にとって暮らし向きに直接影響のある制度改正が行われた時期でした。本調査の結果では、全体の35%の方が「三年前に比べて現在の暮らし向きが悪くなった」という回答になっています。今月（2017年4月）は、食品関係を含む日常生活に必要な商品の値上がりが実施され始めており、年金のみを収入源とする方の多い高齢者の暮らし向きの動向に注意する必要があると感じさせる結果となっています。

◇ 暮らし向きが良くなった理由 ～暮らしにかかる費用が減った～ について

三年前に比べて暮らし向きが良くなったと回答した193人の内、その理由として「自分や家族の収入が増えた」という回答割合は22.1%にとどまり、「暮らしにかかる費用が減った」という回答割合が45.3%となっています。

65歳以上の高齢者が日本の全人口に占める割合（高齢化率）は27%を超え、高齢者の消費支出が全国の一般消費の動向に及ぼす影響は大変大きなものになっています。「暮らし向きが良くなった」と感じている理由の半数近くが「消費の減少」となったことは、今後高齢者の暮らしを充実する方法やシニア市場の活性化を検討する上で考えさせられる結果と言えそうです。

◇ 暮らし向きが悪くなった理由 ～医療・健康にかかる費用が増えた～ について

三年前に比べて暮らし向きが悪くなったと回答した方であつその理由は「物価にかかわらず暮らしにかかる費用が増えたから」と回答した223人の方の内41.7%は最も支出が増えた項目は「病院や薬、整体など医療や健康の維持にかかる支出」と回答しています。加齢に伴う医療・健康にかかる費用の増加は当然の傾向ではありますが、この回答割合は他の選択肢と比べて大幅に高くなっています。高齢者の暮らし向きを悪化させない為には、医療・健康にかかわる商品やサービスを効率よく提供できる仕組み作りが、官民間わず社会全体として取り組むべき大きな課題と言えそうです。

◇ 長寿社会で改善が必要だと思うことについて

長寿社会で改善が必要だと思うこととして「年金や保険制度の改正で老後の生活費がいくら必要かわからない」という選択肢の回答割合が39.0%と他の選択肢より10ポイント以上高い結果となりました。上述のような制度改正が継続的に行われてきた環境の影響が現れた結果と思われるが、弊社の過去の調査（2013年12月実施）においても「将来の生活で不安なことは？」の回答として「将来の生活費」が32.2%で「介護問題（25.5%）」等を抑えて最も高く、また同調査の「消費を増やすために必要なことは？」の回答で「将来の生活に対する安心感」が43.0%と「収入増（16.2%）」を大きく引き離して最も高い割合になっていました。

『老後の生活に対する資金面の不安を払拭すること』が、高齢者の安心感を高め、消費の活性化を実現する為の最も重要な課題になっていると言えるでしょう。

調査会社概要

株式会社ジー・エフは、独自開発した「自動テレマーケティングシステム」(アウトバウンド IVR) を活用し、インターネットやモバイルだけではカバーしきれない『シニア世代』を対象としたマーケティング手法・情報を提供しております。

商号 株式会社ジー・エフ
資本金 10 百万円
設立 2010 年 2 月
代表者 代表取締役社長 岡田 博之
本社 〒135-0016 東京都江東区区東陽三丁目 22 番 6 号 東陽町 AXIS ビル 2F
(2013 年 10 月本店住所移転し上記所在地となっております。)
U R L <http://www.gf-net.co.jp> (コーポレートサイト)
<http://www.senior-promo.com> (シニアマーケティング支援サイト)
事業内容

- ・シニアデータベースを活用したリサーチサービス
- ・各種世論調査、市場調査、マーケティングリサーチ
- ・情報通信システムを活用したマーケティング代行
- ・情報システムの開発販売

【本調査に関するお問い合わせ先】

株式会社ジー・エフ

〒135-0016 東京都江東区東陽 3-22-6 東陽町 AXIS ビル

TEL:03-5633-7844 FAX:03-5633-7854

E-mail: gfmail@gf-net.co.jp